

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.30

日時	2013年7月29日
行脚先	岩屋城
住所	兵庫県淡路市岩屋（淡路国）
行事名	

特徴

淡路島北端に位置する城で、慶長15年(1610年)徳川幕府が豊臣方を牽制するための拠点として、池田輝政によって築かせたと言われています。
輝政の三男池田忠雄が淡路国一國を所領としましたが、当初は父輝政が家臣中村主殿助を派遣して淡路一國を支配させ、慶長16年(1611年)には淡路国全域の検地を実施しました。
慶長18年(1613年)に忠雄が淡路に赴任となり、新しく由良城を築くことになります。
由良城建築の際に岩屋城の建築材や石垣の大部分を転用したため、岩屋城は廃城となりました。

黒田官兵衛との関わり

官兵衛は四国征伐の前準備として、わずか3日で淡路島を制覇したと言われています。
この岩屋城が建てられる以前、別の箇所にも岩屋城と呼ばれる城がありました。そこでは織田信長と石山本願寺の合戦があり、本願寺へ兵糧を輸送する毛利氏と信長軍の間で、岩屋城の争奪戦が繰り広げられたそうです。そして信長軍が勝利して属城とし、以後は羽柴秀吉に引き継がれます。
その後一度は廃城となりますが、池田輝政によって新しく築城されました。
池田輝政は姫路城を現在の形に修築したことで知られ、関ヶ原の戦いでは黒田官兵衛・長政父子と共に東軍として奮闘したと言われています。

記録

